

報道関係者 各位

山形県におけるオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示す

新型インフルエンザウイルスについて

山形県から、タミフル耐性を示すH275Yの遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが分離され、薬剤感受性試験により薬剤耐性が確認されたとの報告がありましたので、その概要について、別紙のとおり、情報提供します。

「タミフル」に耐性を示す新型インフルエンザウイルスの 確認について

県内の新型インフルエンザ患者から分離された新型インフルエンザウイルスから、オセルタミビル（商品名タミフル）耐性を示す遺伝子変異が確認されましたので、その概要についてお知らせします。

1 検査結果

- 山形県衛生研究所の遺伝子解析の結果、オセルタミビル耐性マーカーH275Y（遺伝子変異）が、12月22日に確認されました。
- 国立感染症研究所において詳細な薬剤感受性試験を行なったところ、下記患者（1名）から分離培養されたウイルスは、①オセルタミビル（商品名タミフル）：耐性、②ザナビル（商品名リレンザ）：感受性であることが、本日確認されました。

【※参考 耐性：薬剤に対して抵抗力を持ち、薬剤が効きにくくなること。
感受性：薬剤が有効に作用すること。】

2 患者の経過等

患者：村山地域在住、就学前の男児

基礎疾患：ネフローゼ症候群（腎疾患）、既往歴：気管支喘息

- ・11月7日 家族の一人がインフルエンザに罹患したため、抗インフルエンザ薬の予防投薬（15日まで）
- ・11月14日 咳・鼻汁等の症状
- ・11月15日 発熱・喘鳴のため医療機関を受診
- ・11月16日 再受診。気管支喘息発作のため入院、ウイルス検査用の検体採取
衛生研究所の遺伝子（PCR）検査で新型インフルエンザの感染が確認
抗インフルエンザ薬の治療投薬（21日まで）
- ・11月21日 症状が回復し退院

※上記の経過から予防投薬の影響により、患者の体内でウイルスの一部が耐性化した可能性がある。この患者から周囲への感染拡大は確認されなかった。

3 その他

- 山形県衛生研究所では、これまで新型インフルエンザウイルス140株（県内の患者から12月17日までに採取した検体から検出）について遺伝子解析を実施したが、タミフル耐性遺伝子が確認されたのは、今回が初めてです。
- 全国では、1月12日現在、「タミフル」耐性株は本事例を含め32例確認されています。
- 厚生労働省によるとタミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異は、ウイルスの病原性には直接影響を及ぼすものではないとされています。

※ 報道に際しては、患者の個人情報に特段の配慮をお願いいたします。

山形県新型インフルエンザ対策本部事務局
総合調整班（危機管理並生活安全調整課）
担当：小関・新野（023-630-2550）
感染予防対策班（健康福祉部保健課）
担当：堀・須藤（023-630-2662）